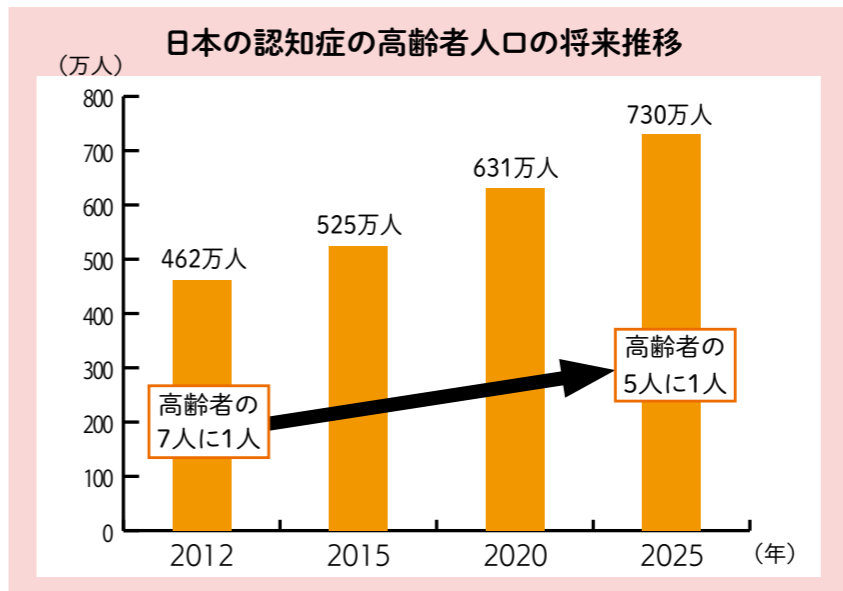
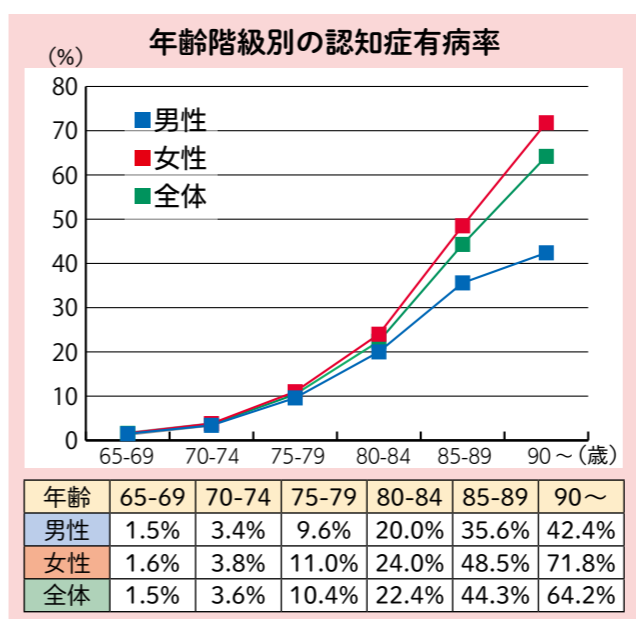


認知症の人は、年々増加傾向にあります。2012(平成24)年時点で462万人、65歳以上の約7人に1人が認知症とされています。高齢化が進むにつれ、さらなる増加が見込まれており、2025(令和7)年には730万人、65歳以上の約5人に1人が認知症になると言われています。



「日本における認知症の高齢者人口の将来推移に関する研究」(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業)による速報値

認知症の出現率は年齢とともに高まり、特に後期高齢期(75歳以上)に入ると加速して増加していきます。80歳代の後半であれば男性の35・6%、女性の48・5%、95歳を過ぎると男性の51%、女性の84%が認知症であることが明らかとなっております。認知症はいつ誰がなってもおかしくありません。誰でもなる可能性のある病気だからこそ、認知症になっても地域で暮らせる環境を作っていくことが大切です。みやま市では、認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができまをまちを目指しています。



日本医療研究開発機構認知症研究開発事業「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究」

1人で悩まず認知症地域支援推進員に相談ください

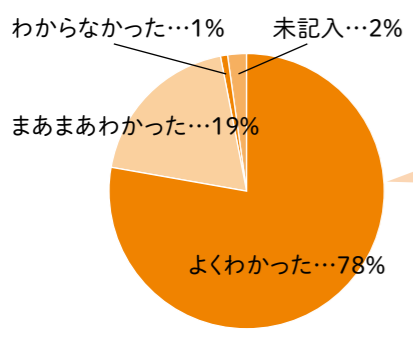
地域包括支援センターには認知症地域支援推進員がいます。認知症地域支援推進員は認知症に関する相談に応じ、医療機関や介護サービス、地域の生活支援と連携しながら、認知症の人の生活を支援していきます。認知症にやさしいみやま市を目指して、認知症サポーター養成講座や認知症カフェなど、さまざまな企画をしています。

認知症になっても安心して地域で暮らせるみやま市を目指してさまざまなことに取り組んでいきたいと思っています。また、認知症に関する相談もお受けしています。電話での相談や、自宅に訪問することも可能です。一人で悩まず、気軽に相談ください。
 相談先電話番号: 地域包括支援センター(Tel.64-1516)



小学生から認知症の理解を深める オレンジ教室

「オレンジ教室」は、小学生向けの認知症サポーター養成講座です。認知症サポーターとは、認知症の人が安心して暮らせるよう、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る人のこと。幅広い世代の認知症への理解を推進することを目的に、子どもたちから認知症の人への接し方などを正しく理解し、ともに支え合う大切さを学びます。今年度は市内全小学校で「オレンジ教室」を開催し、



オレンジ教室実施後、全体の97%の児童が認知症について「よくわかった」「まあまあわかった」と答えています。



↑キャラバン・メイトの皆さんといっしょに認知症について学びます

266人の認知症ジュニアサポーターが誕生しました。

キャラバン・メイトが活躍しています。キャラバン・メイトとは、認知症の正しい知識と具体的な対応方法を学んだ人たちで、「認知症サポーター養成講座」の講師となる人です。オレンジ教室では、各グループにキャラバン・メイトが入り、子どもたち一人一人の意見を尊重しながら学習を進めています。認知症の症状や本人の気持ち、接し方などについて、具体的に分かりやすく伝えます。

「オレンジ教室」に参加した児童の感想(抜粋)

- ・認知症はお年寄りが誰でもなる可能性のある脳の病気だと分かった。
- ・認知症になったらいろんなことを間違えるけれど、できることもいっぱいあることが分かった。
- ・これからはいろんな人にやさしく接したい。お年寄りの人が困っていたらやさしく声をかけてあげたい。
- ・認知症の人がいたら助けてあげたい。
- ・間違えても「大丈夫だよ」と言ってあげようと思う。
- ・認知症の人には、ゆっくり話す。一つずつ言ってあげることが大切だと分かった。一緒に思い出を作りたい。
- ・私は認知症の人が同じことを言っても「今さっき言ったよ」という言葉を言わず、笑顔で、気持ちをしっかりと聞くことが大事だと思った。
- ・認知症のことや認知症の人の気持ちが分かった。これから認知症の人を大事にしていきたい。
- ・認知症のことが分かって、私はお年寄りにやさしくする心を持たりたいなと思った。 など

あなたも認知症サポーターになりませんか

みやま市では、市民向けの認知症サポーター養成講座も実施しています。職場での研修、地域での勉強会などに講師を派遣します。講座では、認知症とはどのようなものなのか、認知症の人への接し方などを映像を交えながら説明します。詳しくは地域包括支援センターに問い合わせください。

☎地域包括支援センター(Tel.64-1516)